



阪神・淡路大震災での復興支援(兵庫県神戸市)

神戸市復興計画のシンボリックなプロジェクトとなったのが「HAT神戸(東部新都心地区)」。UR都市機構では臨海部の約75haの土地区画整理事業の業務を受託し、基礎整備を行い、併せて約3,500戸の復興住宅の建設を行った。



新潟県中越沖地震復興支援(新潟県柏崎市)

住宅被害が2万8000棟を超えた柏崎市。UR都市機構では設計業務を受託するなど、被災者のための170戸の復興公営住宅の早期整備を支援し、本年10月には市が建築工事に着手している。▶P.9

ていかに最適な組み合わせをしていくかが、大切なんだと思います。それを極端な形で表したのが、阪神淡路大震災です。当時の公団から神戸に3000人も職員を派遣しました。また、派遣の規模ははるかに小さいのですが、中越沖地震の際には柏崎市役所に3人の職員を派遣しています。大震災など通常の事態を越えた時に行政に職員を派遣し、復興支援をしているのです。

**見城** 今、日本はどこに向かっているのか、わからない状況になっています。それでも経済が良い時はいいのですが、今は経済力が落ちているところに人口も減少しています。そういう時にまちづくりをしていくというのは、とても辛い状況なのではないですか。

**小川** 時代の潮流は変わりつつありますが、一番わかりやすい話が人口の減少です。それから都市集中型の時代でもなくなってきました。私は経営者の立場でいうと、77万戸の賃貸住宅ストックと財務基盤をどう改善していくかが課題です。賃貸住宅ストックを発射台にして、新しい時代に応じた機構全体の役回りを再編しなければならぬと思います。今まで培ってきた都市開発やまちづくりなどのノウハウ

をもつてすれば、民間のみでは実施困難な都市再生ができると思っています。

**見城** 問題点は少子高齢化とわかっているのですから、UR都市機構が具体的に動いていただければきっと解決に向かうと思っています。それには、当然、新しい価値観を生むことが必要ですね。

**小川** 古い大団地を再生したら、10年後、20年後に団地に散歩に来る人がいたり、また、団地で展開している医療や福祉関係を利用しに、地域外から人がやってくるようになったら、我々が思い描いている団地再生が成功したということになるでしょうね。

**見城** 自分が住んでいることを誇れる街や建物というのが大切ですね。その誇りの部分をUR都市機構がどう下支えしていくかが重要になってくると思います。期待致しております。

小さな地方都市の行政ではなかなか専門スタッフを置けないので、UR都市機構の職員を派遣し、組織としていろいろな場面で支援を行っています。

**見城** どのような地方都市の支援をなさっているのですか。

**小川** 勝田駅東口地区(茨城県ひたちなか市)は、市の市街地再開発事業として都市計画決定を行ったものの、十数年立ち住生していた計画の実現をお手伝いしています。また、防府駅でんじんぐち地区(山口県防府市)には職員を派遣し、地域の需要に即した低容積の身の丈再開発を行いました。

札幌市では、大通り交差点を中心に、いくつかの街区を組み立て直す「創世111区(札幌市において、検討中の再開発エリア)」の事業化のお手伝いをしています。札幌市は複数街区にわたる連鎖型まちづくりの経験がないといふことで、機構に依頼がありました。

**見城** 地方都市が元気になっていくために、地方公共団体の首長の方々の知的、文化的、社会的な部分をきちつとアドバイスできるコンサルタントが必要になります。その役目を担うUR都市機構さんの立場はとても重要ですね。

**小川** できる限りいろいろとアドバイスをして、事業を軌道に乗せ、最後は地元でパトナッチしています。

**見城** そこが重要だと思えます。民間デベロッパーに上手に引き継いでいくことが……。民間デベロッパーとどうパートナーを組んでいくかですね。

**小川** そうですね。行政、機構、民間の3者が、プロジェクトの違いによつ



## 新しい時代の潮流に合わせ 新しい住宅文化や まちづくりをサポートしたい

ていかに最適な組み合わせをしていくかが、大切なんだと思います。それを極端な形で表したのが、阪神淡路大震災です。当時の公団から神戸に3000人も職員を派遣しました。また、派遣の規模ははるかに小さいのですが、中越沖地震の際には柏崎市役所に3人の職員を派遣しています。大震災など通常の事態を越えた時に行政に職員を派遣し、復興支援をしているのです。

**見城** 今、日本はどこに向かっているのか、わからない状況になっています。それでも経済が良い時はいいのですが、今は経済力が落ちているところに人口も減少しています。そういう時にまちづくりをしていくというのは、とても辛い状況なのではないですか。

**小川** 時代の潮流は変わりつつありますが、一番わかりやすい話が人口の減少です。それから都市集中型の時代でもなくなってきました。私は経営者の立場でいうと、77万戸の賃貸住宅ストックと財務基盤をどう改善していくかが課題です。賃貸住宅ストックを発射台にして、新しい時代に応じた機構全体の役回りを再編しなければならぬと思います。今まで培ってきた都市開発やまちづくりなどのノウハウ



防府駅でんじんぐち地区(山口県防府市)

UR都市機構では、地方都市の中心市街地の賑わい創出やまちなか居住を推進している。防府駅でんじんぐち地区では、初期から事業実施段階まで、職員現地常駐派遣を含めてコーディネートを実施して支援した。▶P.7

最近では民間も頑張ってきて、緑を意識した開発が多数行われるようになりまし。民間でもそれだけのことを考えてきていますので、UR都市機構はもつと俯瞰で見て、グリーンベルトをどうつなげていくかを考えていただきたいですね。UR都市機構の建物には必ず緑があり、民間デベロッパーが小規模ながら緑をつなげていくような形になればいいと思います。

**小川** ウォーターフロントは、たまたま水が近くにあったので、それを生かした開発ができています。ここが50年後、どうなっているか楽しみです。

**見城** 東京の武蔵野には江戸時代に人力で作った玉川上水がありますけど、当時は人為的なものでも時間を経るといい雰囲気になってくるものです。緑

かした開発ができたと思えますが、越谷レイクタウン(埼玉県越谷市)の場合は、まさに新しい水辺を核にしたまちづくりを行っています。治水対策のための調節池のまわりに1周5・7kmの遊歩道を作り、調節池では、ボートやカヌーを楽しむことができます。住宅棟の入居も始まり、一部共用開始された遊歩道は人気のジョギングコースになっているようです。東京に近い場所、水辺を抱えたこの街が素晴らしい形で発展していることは、本當にうれしい限りです。ここが50年後、どうなっているか楽しみです。

**見城** 東京の武蔵野には江戸時代に人力で作った玉川上水がありますけど、当時は人為的なものでも時間を経るといい雰囲気になってくるものです。緑

も豊かで落ち着きます。京都の、哲学の道にある水路もそうですね。最初は生活に必要な水ということで、時の権力者が人工的に水を引くわけですが、そこに住む人たちが、それを水の文化として美しい風景にしていってんだですね。

**地方に活力を与える  
都市再生を支援**

**見城** 私は、「公共建築賞」の審査員として、各地を巡って賞の候補となつた建築物を見て、最終審査をさせていただいています。審査にあたって、建築物が持っている力の巨大さというのをつくづく感じています。また、公共建築は極めて社会性が高い建物なので、ひとつ方向を間違ってしまうと、

街全体の方向が変わってしまう恐れがあります。UR都市機構も地方都市の開発事業の支援をなさっていますが、「苦勞もあありでしょう」。

**小川** 4年前に都市基盤整備公団と地域振興整備公団(地方都市開発整備部門)が統合した時の最大の意味合いは、総力をあげて地方都市を支援していきなうということだったと私は理解しています。当時、地域振興整備公団は、地方におけるビッグプロジェクトみたいなものしかやってきませんでした。地方でもあまり大きくない都市は、エアープケットだったわけですね。そこで我々が本格的に地方都市を支援していくことに大きな意義があると思います。いろいろな場所でも「中心市街地の賑わい創出」や「まちなか居住」を進めています。



越谷レイクタウン(埼玉県越谷市)

不忍池の約3倍の大きさの「大相模調節池」を中心にした水辺空間と日本最大級のショッピングモールなどの都市空間が融合した「親水文化創造都市」。地区内はバリアフリー構造で安心して暮らせる環境が整っている。▶表紙/P.22



晴海アイランドトリトンスクエア(東京都中央区)

2001年にオープン。運河に面してテーマ性を持たせた親水空間(花のテラス、水のテラス、緑のテラス)をつくり、街の賑わいを演出。完成して7年になり、樹木の緑も深みを増し、都会のオアシスとなってきた。



大川端リバーシティ21(東京都中央区)

住棟を超高層にすることで、足元のオープンスペースを充実させ、佃公園などの豊かな緑地による新しい形の親水空間を創出。その後のウォーターフロント開発の先導的なまちづくりのモデルとなった。